

新潟大学農学部

附属フィールド科学  
教育研究センター  
年報

第 18 号  
2018 年度

## 目 次

フィールド科学教育研究センター活動日誌（2018年度）	1
研究・教育・地域支援活動	
企画交流部	3
耕地生産部	7
森林生態部	15
研究成果	21
事業・生産活動	
企画交流部	27
耕地生産部	31
森林生態部	32
規定及び内規	33
フィールド科学教育研究センター構成員（2018年度）	40
資料1 各作物の生産概要（耕地生産部）	42
資料2 村松ステーションのトラクター稼働実績	48

## フィールド科学教育研究センター活動日誌(2018年度)

4/1	村松ステーション宿直廃止
4/2	村松ステーション業務打ち合わせ
4/2	森林生態部打ち合わせ
4/3	五泉市立村松桜中学校農場実習打ち合わせ(村松ステーション)
4/3	環境省モニタリング1000小佐渡毎木
4/4	喜多方市農業法人ハートプラザ一行来訪(新通ステーション)
4/5	ごせん桜工房竣工式
4/5	基礎農林実習ガイダンス
4/6	新通ステーション管理委員会
4/6	日本酒学開設式
4/9	新潟県農業総合研究所来訪
4/10	植物実験実習ガイダンス
4/11	JALおざわ農家組合長会議 講演
4/13	観桜会(村松ステーション)
4/16	水稲播種
4/16	森林部門技術士会総会
4/16~19	全国大学演習林協議会 ダケカンバ相互移植実験 合同検討会(東京大)
4/17	JICA黒竜江省草の根交流事業総会(新潟市)
4/17~18	弘前大学および山形大学教員 春植物調査
4/18	樹木生態学特論ガイダンス
4/18	樹木学アドバンスセミナー
4/18	新潟県農業総合研究所 所長打ち合わせ
4/19	㈱クボタICT田植機実演打ち合わせ
4/20	第31回佐渡ゼミ
4/20	土壌肥料学会関東支部新潟大会実行委員会(新潟市)
4/20	新潟県土壌肥料懇話会役員会(新潟市)
4/20	佐渡ステーション 教育関係共同利用拠点運営委員会
4/20	佐渡3施設連携 実務者会議
4/20~21	山開き(佐渡ステーション)
4/22	NPO法人トキどき応援団作業会
4/25	にいがた夢農業・人づくり事業連携会議
4/26	第1回企画交流部会
4/26	五泉市立村松桜中学農場実習
5/3	中国黒竜江省農業委員会応爽氏稲わら加工農家・観光農園現地案内(山古志・長岡)
5/7	耕地生産部 業務打ち合わせ
5/8	大学院GP ガイダンス・田植
5/8	JaLTER2018年代表者会議・運営委員会・情報管理委員会(東京)
5/10	小佐渡岩首地区物質循環予備調査
5/10	3施設共同研究打ち合わせ
5/10~11	全国大学附属農場協議会幹事会および春季協議会
5/11	全国演習林協議会 表彰委員会
5/11	新潟大学附属あゆみ保育園 農場体験
5/11~16	JICA事業現地調査(中国・黒竜江省)
5/12	五泉市立大蒲原小学校 農場見学打ち合わせ
5/13	トキどき応援団ピオトープ作業会
5/14	森林生態部業務打ち合わせ
5/15	牛舎内の監視システム 現地打ち合わせ
5/15	佐渡ジオパーク総会
5/16	新潟県農林水産部経営普及課にいがた夢農業・人づくり事業シンポジウム打ち合わせ(県庁)
5/22	第32回佐渡ゼミ
5/19	新潟市西区親子農業体験(新通ステーション)
5/21	新潟県農業総合研究所園芸研究センター連携打ち合わせ
5/21~24	樹木生態学特論実習
5/23	五泉市との共同事業打ち合わせ(村松ステーション)
5/23~27	中国陝西省林業庁森林体験セミナーでの招待講演
5/25	新潟県農業総合研究所食品研究センター連携打ち合わせ
5/25~30	沼ノ平総合学術調査(只見町)
5/28	JICA関連ジェイカムアグリ㈱との協議
5/28~6/1	東邦大学理学部実習(佐渡ステーション)
5/29	五泉市立村松幼稚園 農場見学・酪農体験
5/29	就業力(基礎農力)WG
5/30	環境省 人・トキ共生の地域づくり協議会
5/31	トキの水辺づくり協議会
6/1	第1回就職ガイダンス
6/1	経済学部海外実習打ち合わせ
6/2~5	東京大学実習(佐渡ステーション)
6/4	五泉市立第一幼稚園 農場見学・酪農体験
6/4	耕地生産部業務打ち合わせ
6/4	村松ステーション ヒアリング
6/5	五泉市立村松桜中学校授業
6/6	五泉サトイモ調査
6/6	薬品・高圧ボンベ研修会
6/6	環境省 人・トキ共生の地域づくり協議会
6/7	フィールドプログラム打ち合わせ及びフィールドナビ
6/8	新潟清酒学校第32回卒業式
6/8	第1回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員
6/8	基礎農林実習全体説明会
6/9	真野鶴に学校蔵に漬ける天然杉材を販売
6/9	乳牛の生産と管理 農場視察
6/11	新潟県日中友好協会総会
6/13	理事との打ち合わせ

6/14	キャンパス市(五十嵐)
6/14	JICA関連ジェイカムアグリ㈱との協議
6/14	トキの水辺づくり協議会 環境モニタリング調査地選定
6/15	キャンパス市(旭町)
6/16	トキの水辺づくり協議会 刈り払い作業会
6/16	トキどき応援団ピオトープ作業会
6/17	新潟県土壌医研修会 講演
6/18	森林総合研究所のこ・森林微生物研究領域森林病理研究室スギにつく病原菌調査
6/18~23	Zelkova & Pterocarya project in Poland
6/20	五泉市サトイモ連作障害試験現地検討会
6/20	第2回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員
6/22	松ヶ崎中学校「森の講座」
6/22~24	野外教育学会 自主企画集会での発表
6/25	花の島佐渡シンポジウム
6/26~29	新潟農業バイオ専門学校(佐渡ステーション)
6/27	里山利用の地域ヒアリング
6/27	第4回U-goサロン発表
6/28	農水試験課題現地検討会(福井県)
6/28	森林生態部打ち合わせ
6/29~7/1	新潟大学教育学部植物実習(佐渡ステーション)
6/30	五泉市立大蒲原小学校4年生 農場見学・酪農体験
7/2	平成30年度県内林業試験研究機関研究調整担当者等情報交換会(五十嵐)
7/2	耕地生産部 業務打ち合わせ
7/5	理事等の内部視察
7/5	実験動物施設視察(村松)
7/6	JICA黒竜江省事業打ち合わせ(新通ステーション)
7/7	すいか祭り(新通ステーション)
7/7	南魚沼地域水稲研修会(南魚沼市)
7/8	五泉市立大蒲原小学校2年生 農場見学・酪農体験
7/9	新潟県農林水産部・農地部連携打ち合わせ
7/10	五泉市立村松桜中学実習(村松ステーション)
7/10	JST環境人材育成コースフォローアップ
7/11	第35回新潟清酒学校入学式・合宿講義(新潟市)
7/11	里山利用の地域ヒアリング
7/14	佐渡市子供環境学習会
7/25	第33回佐渡ゼミ
7/17~27	国際植生学会(米国)
7/18~19	北陸作物・育種学会(長岡)
7/19~20	第3回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員
7/21~23	JICA黒竜江省事業現地派遣
7/23~27	中国西双版納実習(佐渡ステーション)
7/26	新潟県農林水産部農業総務課政策室打ち合わせ(県庁)
7/28	新潟市西区親子農業体験第2回(新通ステーション)
8/1	元FCセンター長 福山名誉教授稲作関係打ち合わせ
8/1~3	新潟県立村松高校職場体験
8/1~6	JICA黒竜江省事業中国研修団受け入れ
8/2	森林生態部打ち合わせ
8/3	理事視察(佐渡ステーション)
8/3	ジオパーク打ち合わせ 演習林(佐渡ステーション)
8/3~5	公開NPO実習(佐渡ステーション)
8/6~11	首都大学東京実習(佐渡ステーション)
8/18~19	一般公開林間実習(佐渡ステーション)
8/20~22	副専攻環境学実習(佐渡ステーション)
8/20~24	新潟大学経済学部実習(佐渡ステーション)
8/21	世界展開力事業 トルコ留学生実習(村松ステーション)
8/23	新潟県植物防疫協会事務局長との打ち合わせ
8/24~25	トルコ留学生実習(佐渡ステーション)
8/27~30	東邦大学実習(佐渡ステーション)
8/29	農学部系高校長との懇談会
8/30~9/5	インターンシップ研修受け入れ(JA越後ながおか)
9/1	公開臨海実習(佐渡ステーション)
9/2~7	育林系演習及び実習(佐渡ステーション)
9/7	五泉市立東小学校2年生 見学・酪農体験
9/7	人・トキ共生の島づくり協議会(生息環境部会)(佐渡ステーション)
9/9~12	森林環境FC実習(佐渡ステーション)
9/12	五泉市立南小学校1年生 見学・酪農体験
9/10~14	動物生産学実験実習 I 牧場実習(村松ステーション)
9/12~13	森里海実習(佐渡ステーション)
9/13	大蒲原小学校1年生 農場見学・酪農体験
9/13	新潟大学附属あゆみ保育園 農場体験
9/13~16	樹木学実習(佐渡ステーション)
9/15	第23回農学部フォーラム・第9回KAABフォーラム
9/15	新潟市西区親子農業体験(新通ステーション)
9/17~21	JICA黒竜江省調査
9/19~21	大阪教育大学実習(佐渡ステーション)
9/20~21	全国演習林協議会 秋季総会(沖縄県)
9/25~28	林道実習(佐渡ステーション)
9/26	第2回企画交流部会
9/26	五泉市保育園合同下見
9/27	五泉市連携協議会
9/27	環境省モニタリングサイト1000打ち合わせ(自然研)

## フィールド科学教育研究センター活動日誌(2018年度)

9/28	五泉市立村松小学校1年生 農場見学・酪農体験
9/28	林野庁・佐渡市 鬼太鼓の森づくり 森林調査
9/29	市民向け酪農教育ファーム活動
9/28~29	富士山森林限界調査
9/28~30	福島大学実習 (佐渡ステーション)
10/1	耕地生産部 業務打ち合わせ
10/1	佐渡三施設 第1回人事WG・第4回設置準備委員会
10/1~2	広野開田資料米収量調査
10/2	植物実験実習(村松ステーション)
10/4	家畜衛生保健所とのミーティング
10/6	新潟大学教育学部向け体験(村松ステーション)
10/7	摂南大学実習 (佐渡ステーション)
10/9	クボタ農機ICT農機研修(村松ステーション)
10/9	五泉市立川東保育園 農場見学・酪農体験
10/10~11	植物実験実習(村松ステーション)
10/10	五泉市立さくら保育園 農場見学・酪農体験
10/11	ジオパーク演習林実習(佐渡ステーション)
10/11~12	広野開田資料米収量調査
10/13	2018にいがたワーク&ライフフォーラム in 上越(上越市)
10/13	新潟市西区親子農業体験(新通ステーション)
10/14~15	トキ放鳥10周年記念シンポジウム・放鳥式
10/15	五泉市立つくし保育園 農場見学・酪農体験
10/16	動物慰霊に関する講演聴講
10/16	五泉市立川内保育園 農場見学・酪農体験
10/16	JaLTER運営委員会 ネット会議
10/16~18	動物生産学実験実習
10/17	耕地生産部会
10/17~18	食のスペシャリスト ミルクプロジェクト分鏡観察(村松ステーション)
10/18	第1回酒造好適米原料米対策委員会
10/20	アグリバザール(五十嵐キャンパス)
10/20~23	ベトナム国立農業大学 ワークショップ参加
10/20~24	植生学会(宇都宮大学)
10/22~25	生態系管理実習(佐渡ステーション)
10/24~26	動物生産学実験実習(村松ステーション)
10/25	五泉市立愛宕小学校 農場見学・酪農体験
10/25~26	演習林調査(佐渡ステーション)
10/26	環境省生物多様性モニタリング1000大佐渡コアサイト毎木調査 (佐渡ステーション)
10/29	成果発表会(村松ステーション)
10/30	五泉市立すもと保育園 農場見学・酪農体験
10/31	平成30年度第5回「にいがたの夢農業・人づくり事業共通講座シンポジウム」
11/1	財務・施設の視察対応(佐渡ステーション)
11/4	JST戦略的国際共同研究シンポジウム(京都)
11/5	耕地生産部業務打ち合わせ
11/6~16	国際農学シンポジウム(マレーシア)
11/6~17	東北大学川渡フィールドセンター
11/7~8・16	人工授精師講習会での実習
11/10	林野庁下越森林管理署研修
11/14	FC成果発表会基調講演打ち合わせ(新潟市)
11/15	佐渡市 副市長他 施設見学(佐渡ステーション)
11/17~18	新潟県農業連盟シンポジウム(佐渡ステーション)
11/19	農水試験専門PO派遣
11/20	新潟県農林水産部技監打ち合わせ(新潟県庁)
11/20~28	Tiwan-Japan Ecology Workshop (台湾)
11/21	新潟県普及事業外部評価
11/21~22	北信越畜産学会
11/26	農と食のスペシャリスト・ミルクプロジェクト 演習 (村松ステーション)
11/26.28	新潟県農業大学校授業
11/27	林野庁新穂官行造林伐採予定地視察
11/28	JICA関連 新潟クボタ訪問
11/28	第5回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員会
11/29	環境省/佐渡市 人・トキ共生の鳥づくり協議会
12/1	土壌肥料学会関東支部大会 特別講演
12/3	耕地生産部業務打ち合わせ
12/3	森林生態部打ち合わせ(佐渡ステーション)
12/4	大学院日本酒プロジェクト上槽体験
12/5	ジオパーク委員会
12/6	環境省生物多様性モニタリング1000森林系一般サイト検討
12/7	新潟県土壌肥料懇話会第2回研究会(新潟市)
12/9	新潟県立植物園講演
12/11~13	動物生産学実験実習(解剖実習) (村松ステーション)
12/12	JICA関連 打ち合わせ
12/13	にいがたの夢農業・人づくり事業学校間連絡会議(新潟県庁)
12/14	農と食のスペシャリスト・ミルクプロジェクト 演習 (村松ステーション)
12/18	JICA関連 打ち合わせ
12/19	第4回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員会
12/21	2018年度FC成果発表会

12/21	樹木生態学特論
12/30	就職ガイダンス
1/6~3/14	海外調査(中国雲南省昆明植物園)
1/7	耕地生産部業務打ち合わせ
1/10	JICA事業打ち合わせ
1/10	村松ステーション 苗畑管理視察(森林生態部)
1/15	畜産研究センター担当者との打ち合わせ
1/15	五泉市立村松桜中学校 酪農講義
1/16	生産環境科学科3年専攻演習
1/16~17	農と食のスペシャリスト ミルクプロジェクト チーズ試作実習
1/22	動物植物基礎実験実習
1/23	五泉市担当者との打ち合わせ
1/23~24	五泉市立村松桜中学校 酪農実習
1/24	平成30年度超淡麗栽培研究会下越西支部検討会(新潟市)
1/24	CTER運営委員会
1/25	JICA事業総会
1/27	只見町研究助成発表会
1/28	只見町ユネスコエコパーク支援委員会
1/29~31	五泉市立村松桜中学校 酪農実習
1/31	第6回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員会
1/31	トキガイド講習会
2/1	日本酒プロジェクト 瓶詰
2/3	東京都葛飾区の小学生 農場見学
2/4	村松ステーション業務打ち合わせ
2/6	新潟市農業活性化研究センター事業推進会議(新潟市)
2/16	第34回佐渡ゼミ・佐渡三施設合同学生研究発表会
2/19	第35回佐渡ゼミ
2/18	JICA 事業打ち合わせ
2/19	新穂小学校5年生、森林について 授業
2/19~20	マダガスカル・アンタナリボ大学教授 演習林訪問
2/20	農場HACCP推進農場認証取得に向けた研修会受講
2/20	トキの水辺づくり協議会 役員会
2/21	マダガスカル講演会
2/21	平成30年度「気象ビジネス推進コンソーシアムセミナーin新潟」
2/22	新潟大学 新センター開所目目前シンポジウム
2/23	新潟市東区サイエンスカフェ
2/27	耕地生産部会成果発表会
2/27	トキの水辺づくり協議会 総会
2/27~3/10	マダガスカル・アンタナリボ大学訪問
2/28	糸魚川地域振興局講演
3/1	新通管理委員会
3/1	新通ステーション管理委員会
3/1	朱鷺の島環境人材創出事業運営委員会(佐渡)
3/3	外海府文化祭への出展
3/4	耕地生産部業務打ち合わせ
3/5	JA越後ながおか講演
3/5	トキの水辺づくり協議会現地検討会(佐渡)
3/8	耕地生産部会
3/11~22	村松ステーション苗畑整備
3/13	臨海実験所共同利用運営委員会
3/14~15	農水助成課題推進会議(福井・石川)
3/14~3/23	スリランカ ペラデニア大学農学部へ短期留学引率
3/15	森林生態部会
3/15	日本生態学会自然保護委員会
3/17~18	日本生態学会
3/18	第57回北信越畜産学会新潟県分会
3/18	新潟県環境保全型農業運営会議(県庁)
3/18	環境省モニタリング1000ネットワークセンター打ち合わせ
3/18	日本生態学会 大島賞受賞講演
3/20	FC運営委員会
3/20	第3回企画交流部会
3/20	トキの水辺づくり協議会 役員会
3/21	日本森林学会 受賞講演
3/21	全国大学演習林協議会共同研究会議(新潟)
3/22	五泉市サトイモ連作障害会議
3/23~24	平成31年度園芸学会春季大会研究発表
3/23~24	日本森林学会 日本野外教育学会エクスカーション
3/23~31	スリランカ ペラデニア大学 共同研究者の招聘
3/25	六花インタビュー
3/26	FDセミナー
3/26	第6回自然共生科学センター(仮称)設置準備委員会
3/27	JICA事業協議
3/27	トキの水辺づくり協議会 総会
3/27	静岡大学演習林共同利用運営委員会
3/27	世界展開力運営会議
3/28	水稲種子消毒

研究・教育・地域支援活動  
企画交流部

教育・実習

1. 講義・実習等（学内対象）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
実務者による教育（基礎農力）講義	9月18・21日	2	新大2年生、新潟県農業大学校、ABio	81	ライブラリーホール	山田・板野

2. 実習・講習・セミナー・出前授業等（学外対象・共同利用関係も含む）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者

## 講演会・地域支援活動等

### 1. 講演会・シンポジウム等の主催・共催

講演会・シンポジウム名	開催日	FC関係の講演者	主催団体	人数	実施場所	担当者
「にいがた夢農業・人づくり事業」共通講座シンポジウム（第15回FCシンポジウムを兼ねて開催）～地域でがんばる農業者からのメッセージ～	10月31日		FC・新潟県・新潟農業バイオ専門学校	189	ライブラリーホール	山田・星・板野
2018年度FC成果発表会	12月21日	高橋・星・本間	FC	85	農学部C110	山田・星・板野

### 3. 地域支援活動等

活動名	開催日	実施元	実施場所	実施期間	担当者
平成30年度JAしおざわ農家組合長会議講演（高品質・良食味な米づくり）	4月11日	JAしおざわ	JAしおざわ		星
新潟清酒学校第32回卒業式	6月8日	新潟県酒造組合	ホテル湖畔		星
西区すいかまつり	7月7日	新潟市西区	メイワサンピア		山田
新潟清酒学校第35回入学式・合宿講義（新潟県の米）	7月11日	新潟県酒造組合	ホテル湖畔		星
2018にいがたワーク&ライフフォーラムin上越講演（「種子法廃止」が意味するもの）	10月13日	にいがた協同ネット	上越市オーレンプラザ		星
平成30年度「越淡麗」下越西支部栽培研究会講演（知っておこう！酒造業界・生産者・県が育てた「越淡麗」）	1月24日	越淡麗栽培研究会 下越西支部	プラスサード		星
JICA草の根技術協力事業「黒竜江省綏化市食の安全と環境対策事業」平成30年度報告・検討会	1月25日	JICA	新潟交通本社ビル		星

## 5. 会議等

会議名	開催日	主催団体	実施場所	担当者
にいがた夢農業・人づくり事業第1回学校間連絡会議	4月25日			山田
第1回企画交流部会	4月26日	企画交流部	農学部	山田・星・板野
新潟県農業総合研究所園芸研究センター連携打ち合わせ	5月21日	企画交流部	新潟県庁	山田・星・板野
新潟県農業総合研究所食品研究センター連携打ち合わせ	5月25日	企画交流部	新潟県庁	山田・星・板野
新潟県農業総合研究所成果発表会	6月27日	新潟県農業総合研究所	アオーレ長岡	星
平成30年度県内農林業試験研究機関研究調整担当者等情報交換会	7月2日	企画交流部	農学部	山田・星・板野
新潟県農林水産部・農地部連携打ち合わせ	7月9日	企画交流部	新潟県庁	末吉・山田・星
新潟県農林水産部政策室との講義打ち合わせ	7月26日	企画交流部	新潟県庁	高橋・星
農学系高校校長との懇談会	8月29日		ときめいと	山田
第23回農学部フォーラム・第9回KAABフォーラム	9月15日		農学部C110	星
第2回企画交流部会	9月26日	企画交流部	農学部	山田・星・板野
五泉市連携検討委員会	9月27日		五泉市	山田
平成30年度第2回原料米対策委員会	10月18日	新潟県酒造組合	新潟県酒造会館	星
新潟県農林水産部との業務打ち合わせ	10月24日	企画交流部	新潟県庁	山田・星
新潟県農林水産部との業務打ち合わせ	11月20日	企画交流部	新潟県庁	山田・星
にいがた夢農業・人づくり事業第2回学校間連絡会議	12月13日			山田
新潟市農業活性化研究センター事業推進会議	2月6日	新潟市	新潟市農業活性化研究センター	星
佐渡3施設統合シンポジウム	2月22日		ライブラリーホール	山田
北信越畜産学会新潟県分会	3月18日		農学部	山田・板野
第3回企画交流部会	3月20日	企画交流部	農学部	山田・星・板野
FC運営委員会	3月20日	FC	農学部	山田・星・板野

## 6. 行政等の委員

件名	委嘱元	担当者



# 耕地生産部

## 研究活動

### 1. 海外共同研究・国際シンポジウム開催等

プロジェクト名・シンポジウム名	開催日	カウンターパート・主催者等	代表者	担当者
JICA草の根技術協力事業黒竜江省調査	5月11日～16日	黒竜江省綏化市・東北農業大学		韓・高橋
JICA草の根技術協力事業黒竜江省派遣報告会	6月11日	新潟県日中友好協会総会		高橋・韓
JICA草の根技術協力事業黒竜江省調査	7月21日～23日	黒竜江省綏化市・東北農業大学		韓
JICA草の根技術協力事業黒竜江省調査	9月17日～21日	黒竜江省綏化市・東北農業大学		韓・高橋

## 2. 国内共同研究・調査等

研究課題	研究目的	実施元等	研究代表者	実施期間	担当者
土壌改良資材を利用したサトイモ連作障害軽減効果の検証 有機液肥を用いた水稻流し込み施肥の効果の確認 乳牛におけるキノコ廃菌床由来飼料利用の評価	地域ブランド野菜の課題解決 有機入り液肥の効率的施肥 エコフィードの活用	五泉市 朝日工業（株） 有限会社パルテック	高橋 高橋 吉田	5月～10月 5月～10月 4月～3月	高橋・韓 高橋 吉田

### 3. ステーション利用による研究・調査（協力教員・技術職員含む）

研究課題・調査名	実施場所	実施期間	担当者
水田深耕と年次別産米品質の関係	新通STA	5月～10月	高橋
有機入り液肥の水稲流入追肥効果	新通STA	5月～10月	高橋
画像解析による水稲生育診断	新通STA	5月～10月	高橋
イチゴ高設栽培における籾殻培地の利用効果	新通STA	10月～翌5月	韓
サトイモとジャンボニンニク栽培における被覆肥料の施用効果	新通STA	1月～12月	韓
野菜栽培における有機質肥料の連用効果	新通STA	4月～11月	韓
タマネギの生産性に関する調査	新通STA	9月～翌6月	高橋史寿
五泉市における里芋連作障害対策	五泉市	5月～10月	高橋
キノコ廃菌床発酵飼料の飼養管理への活用の評価	村松STA	4月～12月	吉田

## 教育・実習

### 1. 講義・実習等（学内対象）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
植物実験実習	10月10日～11日	2	植物コース3年	31	村松STA	高橋
基礎農林学実習(新通STA実習)	1学期	17	農学部2年生他	200	新通STA	韓
基礎農林学実習(村松STA実習)	第2ターム	16	農学部3年生他	200	村松STA	高橋・吉田
動物生産学実験実習I 牧場実習	9月10日～14日	5	農学部動物コース	18	村松STA	吉田他
家畜人工授精講習会	11月7, 8, 16日	3	農学部動物コース	9	村松STA	吉田
農と食のスペシャリスト養成 日本酒プロジェクト	5月～10月	3	大学院生	9	新通STA	韓・高橋
農と食のスペシャリスト養成 ライスプロジェクト	5月～10月	2	大学院生	6	新通STA	韓・高橋
農と食のスペシャリスト養成 ミルクプロジェクト	5月～10月	3	大学院生	8	村松STA	吉田
「乳牛の生産と管理」農場視察	6月9日	1	農学部3年生	36	村松STA	吉田
世界展開力事業 トルコ留学生実習	8月21日	1	トルコ留学生	15	村松STA	吉田

### 2. 実習・講習・セミナー・出前授業等（学外対象・共同利用関係も含む）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
五泉市立村松桜中学授業(講義)	6月、1月	2	3年生	150	村松桜中学	高橋・吉田
五泉市立村松桜中学授業(実習)	4月～1月	10	3年生	150	村松STA	高橋・吉田
県立村松高校職場体験	8月1日～3日	3	2年生	6	村松STA	高橋他
市民向け酪農教育ファーム活動	9月29日	1	大蒲原小学校 4年生	32	村松STA	吉田
五泉市立五泉東小学校(生活科)	9月7日	1	2年生	42	村松STA	吉田
五泉市立五泉南小学校(生活科)	9月12日	1	1年生	74	村松STA	吉田
五泉市立大蒲原小学校(生活科)	9月13日	1	1年生	27	村松STA	吉田
五泉市立村松小学校(生活科)	9月28日	1	1年生	51	村松STA	吉田
五泉市立愛宕小学校(生活科)	10月25日	1	1年生	38	村松STA	吉田

## 講演会・地域支援活動等

### 1. 講演会・シンポジウム等の主催・共催

講演会・シンポジウム名	開催日	FC関係の講演者	主催団体	人数	実施場所	担当者
JICA草の根技術協力事業黒竜江省派遣報告会	6月11日	高橋	県日中友好協会	80	新潟グランドホテル	春日
新潟県土壌医研修会講演	6月17日	高橋	県土壌医の会	30	県農業大学校	長谷川
南魚沼地域水稲研修会講演	7月7日	高橋	南魚沼地域振興局	200	南魚沼地域振興局	
新潟県土壌肥料懇話会第2回研究会	12月7日	高橋	県土壌肥料懇話会	180	ANAホテル	
「おいしい糸魚川産米」収量・品質向上研修会	2月28日	高橋	糸魚川地域振興局	120	糸魚川地域振興局	
越後ながおか米推進大会	3月5日	高橋	JA越後ながおか	200	パストラル長岡	星

### 3. 地域支援活動等

活動名	開催日	実施元	実施場所	実施期間	担当者
新潟市西区親子農業体験教室	5月19日 7月28日 9月15日 10月6日	新潟市西区	新通STA	5月～ 10月	高橋・韓・ 佐藤（俊）
新潟市西区スイカまつり出店	7月7日	新潟市西区	メイワサンピア		耕地生産部教 職員・学生
キャンパス市（農産物販売）	6月14 6月15 10月20	耕地生産部	五十嵐 旭町 五十嵐		耕地生産部教 職員・学生
新潟大学附属あゆみ保育園	5月11日 9月13日	あゆみ保育園		5月～ 9月	高橋・韓・ 佐藤（俊）
園児の農場見学（五泉市立村松幼稚園）	5月29日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立第1幼稚園）	6月4日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立川東保育園）	10月9日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立さくら保育園）	10月10日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立つくし保育園）	10月15日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立川内保育園）	10月16日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
園児の農場見学（五泉市立すもと保育園）	10月30日	耕地生産部	村松STA		吉田・職員
葛飾区小学生と市民の農場視察	2月3日	五泉市学校教育課	村松STA		吉田・職員

#### 4. 来訪・案内

対象者・団体名	実施日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
アロマ工房関係者＋五泉市長	4月5日	1		3	村松STA	山田
森林総合研究所	5月8日	1		3	村松STA	吉田
有限会社パルテック	5月9日	1		1	村松STA	吉田
福島大学からの見学者	5月10日	1		1	村松STA	吉田
森林総合研究所	5月11日	1		1	村松STA	(森口)
五泉市企画政策課	5月23日	1		4	村松STA	吉田
森林総合研究所	6月25日	1		4	村松STA	(森口)
畜産研究センター	7月11日	1		3	村松STA	吉田
五泉市立保育園関係者	9月26日	1		5	村松STA	吉田
JICA関係者	10月1日	1		1	村松STA	高橋
中央家畜保健所	1月8日	1		3	村松STA	吉田
畜産研究センター	1月15日	1		1	村松STA	吉田
五泉市学校教育課	1月23日	1		2	村松STA	吉田
スリランカ ペラデニア大学	3月25日	1	教員	1	村松STA	吉田

## 5. 会議等

会議名	開催日	主催団体	実施場所	担当者
農水課題地域戦略プロジェクト推進会議	6月28日	福井県	福井県農業試験場	高橋
農水課題地域戦略プロジェクト推進会議	8月27日～ 28日	石川県	石川県農林総合研 究センター	高橋
県普及事業外部評価委員会	9月10日	新潟県	県庁	高橋
農水課題地域戦略プロジェクト報告会議	11月19日	石川県	石川県農林総合研 究センター	高橋
農水課題地域戦略プロジェクト推進会議	3月14日	福井県	福井県農業試験場	高橋
農水課題地域戦略プロジェクト推進会議	3月15日	石川県	石川県農林総合研 究センター	高橋
五泉市産学官連携推進委員会	8月17日	五泉市	五泉市役所	吉田
五泉市連携協議会	9月27日	五泉市	五泉市役所	山田・高 橋・吉田

## 6. 行政等の委員

件名	委嘱元	担当者
新潟県特別栽培農産物認証制度委員	新潟県農林水産部	高橋
新潟県普及指導活動外部評価委委員	新潟県農林水産部	高橋
革新的技術開発・緊急展開事業に係る専門PO	生物系特定産業支援センター	高橋
非常勤畜産コンサルタント	新潟県畜産協会	吉田
地域交流牧場全国連絡会北陸ブロック会員	北陸酪農業協同組合連合会	吉田
地域交流牧場全国連絡会北陸ブロック酪農教育ファーム推進委員	北陸酪農業協同組合連合会	吉田



森林生態部

研究活動

1. 海外共同研究・国際シンポジウム開催等

プロジェクト名・シンポジウム名	相手国・カウンターパート	研究代表者	担当者
The project <i>Pterocarya</i>	University of Fribourg	Gregor Kozlowski	崎尾
JST二国間交流事業共同研究「日華植物区系における主要植物の系統・種分化をもたらす時空メカニズムの解明」(2015. 11-2019. 3)	中国 浙江大学	井鷲裕司	阿部
ツバキ属の進化にかかわる研究	中国 昆明植物園	阿部晴恵	阿部

2. 国内共同研究・調査等

研究課題	研究目的	実施元等	研究代表者	実施期間	担当者
環境省 生物多様性モニタリング1000 (森林系コアサイト)	生物多様性国家戦略に基づく、森林生態系の生物多様性長期基礎調査	環境省		2004年度より	崎尾・本間
環境省 生物多様性モニタリング1000 (鳥類)	生物多様性国家戦略に基づく、森林生態系の生物多様性長期基礎調査	環境省		2004年度より	本間
富士山森林限界の動態解明	富士山の森林限界の森林植生の長期動態を解明する	静岡大学	増澤武弘	2008年度より	崎尾
オオミスミソウの生態	オオミスミソウの生態	京都大学	亀岡慎一郎	2014年度より	崎尾・阿部
隠岐諸島に生育する氷河期遺存樹種の更新戦略と遺伝的多様性	隠岐島と佐渡島における樹木分布と遺伝構造	島根大学	久保満佐子	2018年度より	崎尾
沼ノ平総合学術調査	沼ノ平における植物リスト作成と植生調査	只見町	崎尾均	2017年度より	崎尾
伊豆諸島におけるツリガネニンジンの送粉系に関する研究	伊豆諸島におけるツリガネニンジンの送粉系に関する研究	大阪教育大学	岡崎純子	2017年度より	阿部
タマアジサイの遺伝的構造の研究	タマアジサイの遺伝的構造の研究	神奈川大学	岩崎貴也	2017年度より	阿部
コメツツジ類の遺伝的構造の研究	コメツツジ類の遺伝的構造の研究	千葉大学	渡辺洋一	2015年度より	阿部
アカガエルのヒキガエルに対する耐毒性に関する研究	アカガエルのヒキガエルに対する耐毒性を解明する	北海道大学	岸田治	2017年度より	阿部
魚類縦断探索システムを用いた農業水路系生態系配慮施設の戦略的整備手法の構築	超音波生物探査システムの開発	新潟大学	吉川夏樹	2017年度より	本間
周波数応答インピーダンス特性解析によるラメット識別判定法の開発	クローン植物のラメットサイズの非破壊推定	新潟大学	元永佳孝	2014年度より	本間
相互移植実験を用いた温暖化に対する北方林のレスポンスの解明	北方林の温暖化による変化予測	東京大学	後藤晋	2017年度より	本間

### 3. ステーション利用による研究・調査（協力教員・技術職員含む）

研究課題・調査名	実施場所	実施期間	担当者
春植物の調査（オオミスミソウ） 京都大学大学院 亀岡 慎一郎	演習林	4月－5月	崎尾・阿部
佐渡のカタクリ調査 京都大学大学院 樋口裕美子	演習林	4月－5月	阿部
佐渡演習林の気象観測とデータベース化（災害研 河島先生）	演習林	通年	本間
環境省モニ1000サイトにおける鳥類調査（バードリサーチ）	演習林	5月－6月	本間
演習林での調査 きのこ・森林総合研究所 高橋研究員	演習林	6月	阿部
演習林での昆虫調査 自然環境研究センター 柴田直之	演習林	6月－9月	本間
佐渡の植物勉強会 京都大学大学院	演習林	7月	崎尾・阿部
（環）RDB調査 日本自然保護協会 中川清太郎	演習林	7月	阿部
海浜植物スナビキソウの分布調査 理学部 石崎智美先生	佐渡島内	8月	菅
コウモリ調査 朱鷺自然再生学研究センター 江藤先生・柴田・学生	演習林	8月	菅
佐渡の植物調査 京都大学大学院 井鷺先生	佐渡島内	8月	阿部
アブラムシ調査 芝浦工大柏高校 松本嘉幸先生	演習林	11月	本間

## 教育・実習

### 1. 講義・実習等（学内対象）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
樹木生態学特論フィールドスタディ	5月	4日	農学部・他大学	11	演習林	崎尾・阿部・菅
基礎農林実習（1班）	6月	2日	農学部全学科	33	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
基礎農林実習（2班）	6月	2日	農学部全学科	33	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
基礎農林実習（3班）	6月	2日	農学部全学科	32	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
基礎農林実習（4班）	7月	2日	農学部全学科	32	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
基礎農林実習（5班）	7月	2日	農学部全学科	34	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
基礎農林実習（6班）	7月	2日	農学部全学科	32	演習林・小佐渡	崎尾・本間・阿部・菅
公開林間実習 2018	8月	2日	一般	30	演習林	崎尾・本間・阿部・菅
森林環境FC実習	9月	4日	他大学	5	演習林	崎尾・本間・阿部・菅
育林系演習及び実習	9月	6日	農・生産環境科学	36	演習林	中田・崎尾・本間・阿部・菅
副専攻環境学実習	8月	3日	副専攻	6	小佐渡	本間
樹木学実習	9月	4日	農・生産環境科学	18	演習林	崎尾・菅
森林生態系管理学実習	10月	4日	農・生産環境科学	15	小佐渡	本間
林道設計実習	9月	4日	農・生産環境科学	37	演習林	権田

### 2. 実習・講習・セミナー・出前授業等（学外対象・共同利用関係も含む）

授業科目名・利用者名等	開催日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
野外生態学実習Ⅱ 東邦大学（長谷川班）	5月	5日	東邦大学理学部	13	演習林	阿部・菅
佐渡実習	6月	4日	東京大学大学院	27	小佐渡	本間
佐渡樹木学研修	6月	4日	新潟バイオ専門学校	17	演習林	菅
自然情報講座	6月～7月	3日	新潟大学教育学部	11	演習林	菅
さくらサイエンス実習	7月	5日	中国シザン <sup>h</sup> 熱帯植物園	12	演習林	阿部・菅
高田研究室セミナー（梶井ハウス）	7月～8月	3日	農学部	8	梶井ハウス	高田
野外生態学実習	8月	6日	首都大学東京	13	演習林	菅
四ヶ国佐渡サマワークショップを実施するため	8月	4日	経済学部・3ヶ国	39	演習林	崎尾・阿部
トルコ・留学生佐渡実習	8月	2日	農学部（アンカラ大学）	26	演習林	本間
野外生態学実習 東邦大学（小沼班）	8月	4日	東邦大学理学部	20	演習林	阿部・菅
公開臨海実習野1部（演習林紹介）	9月	1日	臨海実験所	6	演習林	菅
野外授業「地殻科学実習」（梶井ハウス）	9月	2日	教育学部	6	演習林	藤林
森里海実習	9月	2日	長野大学他	22	演習林	阿部・菅
野外実習	9月	3日	大阪教育大学	9	演習林	阿部・菅
佐渡島実習	9月	3日	福島大学	17	演習林	阿部・菅
文化演習1・2の実施	10月	1日	摂南大学外国語学部	3	演習林	阿部
ジオパーク研修	10月	1日	ジオサイトガイド総合ガイド	8	演習林	崎尾

## 講演会・地域支援活動等

### 1. 講演会・シンポジウム等の主催・共催

講演会・シンポジウム名	開催日	FC関係の講演者	主催団体	人数	実施場所	担当者
第31回佐渡ゼミ	4月20日	紙谷 智彦	森林生態部	34	佐渡ステーション	崎尾
第32回佐渡ゼミ	5月22日	いがり まさし	森林生態部	13	佐渡ステーション	崎尾
第33回佐渡ゼミ	7月25日	中村 彰宏 他	森林生態部	15	佐渡ステーション	阿部
第34回佐渡ゼミ・佐渡三施設合同学生研究発表会	2月16日	佐渡研究室、臨海実験所の学生	佐渡三施設	31	トキ交流会館	菅
第35回佐渡ゼミ	2月19日	ズ・ラライナ・ラザフィアリスン博士 他	森林生態部	10	佐渡ステーション	崎尾
新センター開所目前シンポジウム	2月22日	崎尾	佐渡三施設	64	大学ライブラリーホール	菅

### 2. 地域支援活動等

活動名	開催日	実施元	実施場所	実施期間	担当者
トキどき応援団ビオトープ作業会	4月22日	トキどき応援団	トキ交流会館	1日間	本間
人・トキ共生の地域作り協議会（生息環境部会）	5月30日	環境省・佐渡市	トキ交流会館	1日間	本間
トキの水辺づくり協議会（総会）	5月31日	佐渡地域振興局	トキ交流会館	半日	本間
人・トキ共生の地域作り協議会（総会）	6月6日	環境省・佐渡市	トキ交流会館	半日	本間
人・トキ共生の地域作り協議会（作業会）	6月14日	佐渡地域振興局	トキ交流会館	半日	本間
トキどき応援団ビオトープ作業会	6月14日	トキどき応援団	トキ交流会館	半日	本間
花の島佐渡シンポジウム	6月25日	佐渡在来生物を守る会	トキ交流会館	1日間	阿部
森の講座 松ヶ崎中学校	6月22日	佐渡市	松ヶ崎中学校	1日間	本間
JST環境人材養成フォローアップ	7月10日	JST講座卒業生	佐渡ST	1日間	本間
佐渡市こども環境学習	7月14日	佐渡市	演習林	1日間	阿部、菅
人・トキ共生の地域作り協議会（生息環境部会）	9月7日	環境省・佐渡市	トキ交流会館	1日間	本間
鬼太鼓の森づくり事業現地調査	9月28日	林野庁・佐渡市	両津	半日	本間
佐渡ジオパークガイド実習	10月11日	佐渡ジオパーク協会	演習林	1日間	崎尾
トキ放鳥10周年記念式典	10月14日・15日	環境省・佐渡市	小佐渡	2日間	本間
林野庁下越森林管理署研修会	11月10日	林野庁	演習林	1日間	本間
新穂官行造林地伐採予定地視察	11月27日	林野庁	小佐渡	1日間	本間
人・トキ共生の地域作り協議会（総会）	11月29日	環境省・佐渡市	トキ交流会館	半日	本間
トキガイド講習会	1月31日	佐渡市	トキ交流会館	1日間	崎尾
新穂小学校5年生、森林についての授業	2月19日	佐渡市新穂小学校	新穂小学校	半日	菅、本間(大)
トキの水辺づくり協議会（幹事会）	2月20日	佐渡地域振興局	トキ交流会館	半日	本間
新潟市東地区公民館サイエンスカフェ	2月23日	新潟市	新潟市中央図書館	半日	本間
トキの水辺づくり協議会（総会）	2月27日	佐渡地域振興局	トキ交流会館	半日	本間
外海府文化祭への出展	3月3日	外海府文化祭実行委員会	矢柄活性化センター	1日間	石塚

### 3. 来訪・案内

対象者・団体名	年月日	日数	対象者	人数	実施場所	担当者
佐渡三施設調査【危機管理・事務組織・労務福利】 理事視察	7月19日	1日	新潟大学	11	佐渡ST・演習林	本間
佐渡地区重要資産調査 財務管理・施設管理課視察	8月3日	1日	新潟大学	6	佐渡ST・演習林	崎尾・本間
演習林での実習下見	9月8～9日	2日	新潟大学外部講師	1	演習林	阿部
演習林視察	10月18日	1日	元東京農大河原教授	1	演習林	本間
佐渡視察 財務部長他	11月1日	1日	新潟大学	6	佐渡ST・演習林	阿部
演習林視察・研修	11月10日	1日	林野庁 下越森林 管理署	7	演習林	本間
演習林視察	11月13日	1日	横浜国立大学	3	演習林	本間
佐渡市副市長視察	11月15日	1日	佐渡市役所	3	佐渡ST	菅
マダガスカル・アンタナナリボ大学演習林視察	2月19～20日	2日	マダガスカル大学	3	佐渡ST	崎尾

### 5. 会議等

会議名	開催年月日	主催団体	実施場所	担当者
森林生態部業務打合せ	4月2日	森林生態部	佐渡ST	全員
森林生態部業務打合せ	5月14日	森林生態部	佐渡ST	全員
森林生態部教員打合せ	6月28日	森林生態部	佐渡ST	全員
森林生態部教員打合せ	8月2日	森林生態部	佐渡ST	全員
森林部門技術士会総会	4月16日	森林部門技術士会	日林協	崎尾
佐渡ジオパーク協議会総会	2018/5/15, 12/5	佐渡ジオパーク 協議会	アイポー ト佐渡	崎尾
佐渡三施設準備委員会	6, 7, 9, 10, 11, 1月	研究企画推進部	新潟大学	崎尾・阿部
全国大学演習林協議会春季理事会	5月11日	全国大学演習林 協議会	一橋大学	崎尾
全国大学演習林協議会総会	9月20日	全国大学演習林 協議会	ホテルゆがふい んおきなわ	崎尾・本間・阿部
植生学会運営委員会	10月20日	植生学会	宇都宮市	崎尾
佐渡市外海府の暮らしと農林水産業の視察研修会	11月17日～18日	新潟県農協労連	佐渡ST	本間・伊藤
環境省生物多様性モニタリング1000森林系一般サイト検討会	12月6日	環境省・日本野 鳥の会	東京	本間
「自然首都・只見」学術調査研究助成事業研究成果発表会	1月27日	只見町	只見町	崎尾
只見ユネスコエコパーク支援委員会	1月28日	只見町	只見町	崎尾
朱鷺の島人材創出事業運営委員会	3月1日	朱鷺・自然再生 学研究センター	小佐渡	本間
日本生態学会自然保護委員会	3月	自然保護委員会	神戸市	阿部
全国演習林協議会ダケカンバ相互移植実験研究会議	3月	全国演習林協議 会	新潟市	本間

6. 行政等の委員

件名	委嘱元	担当者
樹木医学研究編集委員	樹木医学会	崎尾
JaLTER代表委員会	JaLTER	崎尾・本間
日本MAB計画委員会委員	日本MAB計画委員会	崎尾
佐渡ジオパーク推進協議会委員	佐渡市	崎尾
静岡大学演習林教育拠点プログラム小委員会委員	静岡大学農学部附属演習林	崎尾
新潟大学理学部附属臨海実験所教育関係共同利用運営委員会委員	新潟大学理学部附属臨海実験所	崎尾
只見ユネスコエコパーク支援委員	只見町	崎尾
只見町ブナセンター紀要（只見の自然）編集委員	只見町ブナセンター	崎尾
只見町沼ノ平総合学術調査団長	只見町	崎尾
植生学会副会長	植生学会	崎尾
環境省生物多様性モニタリング1000森林系コアサイト検討委員	環境省、自然環境研究センター	本間
環境省生物多様性モニタリング1000鳥類サイト検討委員	環境省、日本野鳥の会	本間
新潟県トキ野生復帰アドバイザー	新潟県	本間
人・トキの共生の島づくり協議会（副会長、環境部会座長）	環境省・佐渡市	本間
佐渡市環境審議会委員	佐渡市	本間
トキの水辺づくり協議会（アドバイザー）	新潟県佐渡地域振興局地域整備部	本間
佐渡エコツーリズム協議会	佐渡観光協会	本間
天王川自然再生協議会	新潟県佐渡地域振興局地域整備部	本間

# 研究成果

## フィールド科学教育研究センター 耕地生産部

### 原著論文

論文表題 著者名	掲載誌名	巻・頁	発行年
1. 新潟大学農場におけるラジコンヘリを利用した簡易リモートセンシングの現状と可能性 濱田 悟志・佐藤 翼・佐藤 俊栄・高橋 史寿・石本 光明・剣持 亜津己・韓 東生・高橋 能彦	大学農場研究	5-6	2018
2. 米・食味分析鑑定コンクールについて 高橋 能彦	新潟アグロノミー	54, 37-40	2018
3. Temporal changes in the skin morphology in dairy cows during the periparturient period. Banri SUZUKI, Toshie SUGIYAMA, Chikako YOSHIDA, Toshihiko NAKAO	Journal of Dairy Science Article Type: Short Communications	101, 6616-6621	2018
4. 新潟県魚沼地域における自給飼料の生産と利用が酪農経営に与えた効果 栗村 美帆・吉田 智佳子 Economic impacts and effects on milk productivity of self-produced forage on commercial dairy farms in Uonuma Japan. Miho KURIMURA and Chikako YOSHIDA	新潟大学農学部 研究報告	70, 29-40	2018

### 学会発表

論文表題 発表者名	発表学会等	頁	発行年
1. 深耕の連用と水稲の生育・収量との関係（ポスター） 畠山 一平・高橋 能彦	日本土壤肥料学会 関東支部大会	15	2018
2. Blood n-3 fatty acid concentration and metabolic responses of dairy cows fed perilla seed oil extract during the transition period.（ポスター） Chikako YOSHIDA, Nanami KOIKE, Koichi AOYAMA, Satoko SUNADA, Takakazu NISHIKAWA, Shigefumi TANAKA, Chisato MINAGAWA	WBC 2018 The XXX World Buiatrics Congress （第30回世界牛病 学会）	306	2018
3. 乳牛へのエゴマ搾油残渣給与による血中および乳中の脂肪酸濃度の変化（口頭発表） 青山 宏一・小池 菜々美・砂田 智子・田中 繁史・西川 孝一・吉田 智佳子	第56回北信越畜産 学会新潟県分会研 究発表会	53, p3	2018

<p>4. 移行期の乳牛へのエゴマ子実搾油残渣給与による血中オメガ3脂肪酸濃度の変化 (口頭発表) 吉田 智佳子・小池 菜々美・青山 宏一・砂田 智子・皆川 千怜・田中 繁史・西川 孝一</p>	<p>日本畜産学会 第124回大会</p>	<p>127</p>	<p>2018</p>
<p>5. Follicular dynamics in postpartum dairy cows with abnormal resumption of ovarian cyclicity (口頭発表) Wakana TAKAHASHI, Miho KURIMURA, Chikako YOSHIDA</p>	<p>Scientific workshop in bovine reproductive technology. Hanoi, Vietnam</p>	<p>Abstract book</p>	<p>2018</p>
<p>6. コーンコブ主体キノコ廃菌床発酵飼料の発酵品質と乳牛の乳生産におよぼす影響 (口頭発表) 渡辺 璃子・安達 萌花・吉田 智佳子・天野 夕里子・西川 孝一・田中 繁史</p>	<p>北信越畜産学会 第67回大会</p>	<p>117, p4</p>	<p>2018</p>
<p>7. 酪農における飼料コスト軽減を目的としたコーンコブ主体キノコ廃菌床発酵飼料利用の評価 (口頭発表) 安達 萌花・渡辺 璃子・吉田 智佳子・天野 夕里子・西川 孝一・田中 繁史</p>	<p>北信越畜産学会 第67回大会</p>	<p>117, p5</p>	<p>2018</p>



フィールド科学教育研究センター 森林生態部

著 書

著 者 名	発 行 所 名	発 行 年
1. Development of a New Methodology for Comprehensive Fresh Water Fish Survey Using Ultrasonic Echo-Imaging Device. IN: e-Proceedings Research Frontiers in Precision Agriculture. Y. MOTONAGA, N. YOSHIKAWA, T. SATO, N. UMEKI, K. HOMMA	Centre of Studies in Resources Engineering, Indian Institute of Technology Bombay (IITB) , Mumbai	2018

原 著 論 文

論 文 表 題 著 者 名	掲 載 誌 名	巻・頁	発行年
1. The regeneration mechanisms of a <i>Pterocarya rhoifolia</i> population in a heavy snowfall region of Japan. YOSUKE NAKANO and HITOSHI SAKIO	Plant Ecology	219(12), 1387-1398	2018
2. Nitrogen acquisition, net production and allometry of <i>Alnus fruticosa</i> at a young moraine in Kryoto Glacier Valley, Kanchatka, Russian Far East. K. TAKAHASHI, K. HOMMA, J. DREZAL, K. YAMAGATA, V. P. VETROVA, T. HARA	Journal of Plant Research	DOI:10.1007/s10265-018-1037-62018	2018

その他の印刷物

表 題 著 者 名	掲 載 誌 名	頁	発行年
1. 自著を語る－水辺の樹木史－ 崎 尾 均	ほんのこべや	51, 63-68	2018
2. 研究サイトから (37) 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション 本 間 航 介	日本生態学会誌	68, 249-253	2018

学 会 発 表

論 文 表 題 発 表 者 名	発 表 学 会 等	頁	発 行 年
1. Life history strategy of <i>Cercidiphyllum japonicum</i> . (招待講演) H. SAKIO, M. KUBO	Relict woody plants: linking the past, present and future Conference and workshop in Poland		2018
2. Do the amount and synchronism of flowering of male and female trees change with age? (Poster) H. SAKIO	61 <sup>th</sup> Annual Symposium of the International Association for Vegetation Science, Boznan, USA		2018
3. The effect of global warming on forest trees - Reproduction and forest dynamics -. (Oral) H. SAKIO	The 8 <sup>th</sup> International Agriculture Congress 2018, Malaysia.		2018
4. Influence of large debris flow on forest floor vegetation of riparian forest in mountain region. (Poster) N. ITO, H. SAKIO	The 8 <sup>th</sup> International Agriculture Congress 2018, Malaysia.		2018
5. The diversity of vegetation in landslide area of Numanodaira, North-west Tadami, Fukushima. (Poster) R.MATSUURA, Y. NAKANO, H. SAKIO	The 8 <sup>th</sup> International Agriculture Congress 2018, Malaysia.		2018
6. Development of a New Methodology for Comprehensive Fresh Water Fish Survey Using Ultrasonic Echo-Imaging Device Y. MOTONAGA, N. YOSHIKAWA, T. SATO, N. UMEKI, K. HOMMA	AFITA2018, Mumbai		2018
7. Effects of heavy snow adapted the forest structure of <i>Thjopsis dolabrata</i> var. <i>hondae</i> in Sado Island. (Poster) S. NAIKI, H. ABE, H. SAKIO	The 6 <sup>th</sup> Taiwan-Japan Ecology Workshop, Taiwan		2018
8. Spatial genetic structure in alpine populations of an endangered gentian, <i>Gentiana yakushimensis</i> . (Poster) N. ISHII, Y. TSUNAMOTO, S. HIROTA, A. MATSUO, H. ABE, Y. SUYAMA	The 8 <sup>th</sup> EAFES, Nagoya, Japan		2018

9. Speciation of Japanese <i>Camellia</i> based on Pollinator shift. (Poster) H. ABE, H. MIURA, R. KATAYAMA, Y. MOTONAGA, Y. MATSUKI, Y. SUYAMA, S. UENO	The 2 <sup>nd</sup> East Asian plant diversity and conservation conference in Kyoto, Japan		2018
10. Speciation of Japanese <i>Camellia</i> based on Pollinator shift. (Poster) H. ABE, H. MIURA, R. KATAYAMA, Y. MOTONAGA, Y. MATSUKI, Y. SUYAMA, S. UENO	The 6 <sup>th</sup> Taiwan-Japan Ecology Workshop, Tainan, Taiwan		2018
11. ミスミソウの繁殖成功は集団内における花色頻度の影響を受けるのか？ (口頭発表) 亀岡 慎一郎・崎尾 均・阿部 晴恵・阪口 翔太・瀬戸口 浩彰	日本植物分類学会第17回大会	B1	2018
12. シオジ雌雄個体の開花同調性. (ポスター) 崎尾 均	第65回日本生態学会札幌大会	P3-049	2018
13. ヒノキアスナロ林の更新様式が群落構造に与える影響. (ポスター) 内木 翔大・崎尾 均	第65回日本生態学会札幌大会	P2-005	2018
14. 溪流攪乱に影響される林床植生の種組成と季節. (ポスター) 伊藤 菜美・崎尾 均	第65回日本生態学会札幌大会	P2-006	2018
15. ミスミソウの花色は何故多様なのか. (口頭発表) 亀岡 慎一郎・若林 智美・三井 裕樹・田中 啓介・村井 良徳・岩科 司・大橋 一晴・阿部 晴恵・崎尾 均・瀬戸口 浩彰	第65回日本生態学会札幌大会	T14-4	2018
16. 新潟大学演習林における森林環境教育. (口頭発表) 崎尾 均・本間 航介・阿部 晴恵・菅 尚子	第129回日本森林学会大会	C-10	2018
17. ミスミソウの花色多型と訪花昆虫による食害・種子生産量の関係. (口頭発表) 亀岡 慎一郎・高橋 大樹・長澤 耕樹・崎尾 均・阿部 晴恵・瀬戸口 浩彰	第82回植物学会	3aE01	2018
18. 只見ユネスコエコパークの取り組みと沼ノ平総合学術調査. (口頭発表) 崎尾 均・伊藤 菜美・松浦 隆介・中野 陽介	森林施業研究会		2018
19. 溪流攪乱に影響される林床植生の種組成と季節変化. (ポスター) 伊藤 菜美・崎尾 均	植生学会第23回大会	P07	2018

20. 交流電導の周波数応答特性によるクローナル植物の個体識別 (ポスター) 本間航介・柳沢直・松久聖子・元永佳孝	第65回日本生態学会 札幌大会	P3-045	2018
21. 管理手法の異なる里山棚田景観における土壌動物群集を用いた環境指標の開発 (ポスター) 古郡憲洋・岸本圭子・本間航介	第65回日本生態学会 札幌大会	P2-142	2018
22. チッ素循環を指標とした里山評価 (ポスター) 井田勇也・本間航介	第65回日本生態学会 札幌大会	P1-274	2018
23. 「朱鷺と農業」(招待講演) 本間航介	日本土壤肥料学会 東日本支部会		2018
24. <i>Camellia</i> 節の花形態の比較. (ポスター) 片山瑠衣・阿部晴恵	第65回日本生態学会、 札幌	P1-045	
25. ヤマアカガエル・モリアオガエルの防衛形態変化に関する野外研究. (ポスター) 柳澤海大・岸田治・小林誠・阿部晴恵	第65回日本生態学会、 札幌	P1-102	2018
26. 森口喜成新潟県におけるツバキ属遺伝資源の花形質および遺伝的特性の評価. (ポスター) 小濱宏基・阿部晴恵・上野真義	第129回日本森林 学会大会 高知	002E	2018
27. プレート移動に基づく島嶼からの植物の再移入が本土における種多様化に与える影響. (ポスター) 阿部晴恵・渡辺洋一・長谷川雅美	第65回日本生態学会、 札幌	P3-175	2018
28. 新潟大学佐渡演習林における教育研究活動(口頭発表) 阿部晴恵・菅尚子	野外教育学会第21回 大会, 信州大学		2018

# 事業・生産活動

## 企画交流部

### 1 シンポジウム・成果発表会等の開催

#### (1) 平成30年度第5回「にいがた夢農業・人づくり事業」共通講座シンポジウム

将来の農業をリードする企業的農業経営者の育成をめざし、県内の農業系大学・専門学校の共通講座として、地域でがんばる農業者の具体的な取組みについて幅広く学ぶことを目的に開催した。なお、本シンポジウムは第15回FCシンポジウムを兼ねて開催した。

○主催；新潟大学農学部、新潟県、新潟農業・バイオ専門学校

○日時；平成30年10月31日（水） 12:55～16:20

○場所；新潟大学 中央図書館 ライブラリーホール

○対象；新潟大学農学部・新潟県農業大学校・新潟農業バイオ専門学校の学生及び教職員、県内農業研究・普及機関、FC情報交換会参加機関 等

○参加者；189名（新潟大学農学部学生・院生128、新潟大学農学部教職員14、新潟県農業大学校学生13、新潟農業バイオ専門学校学生23、学外機関11名）

○テーマ：“21世紀農林業・越後から発信！”

「地域でがんばる農業者からのメッセージ」

コーディネーター；新潟大学農学部 伊藤亮司、栗生田忠雄

講演1「多品目・多品種栽培と6次産業化の取組みによる通年観光農園の実現 ～平29農林水産大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞受賞～」

（有）白根グレープガーデン 代表取締役 笠原節夫 氏

講演2「大規模水稻農業経営の新たなビジネスモデルをめざす ～平29未来につながる持続可能な農業推進コンクール農林水産大臣賞受賞～」

（有）穂海農耕 代表取締役 丸田 洋 氏

講演3「有機栽培への挑戦 ～生き物とともに～」

夢の谷ファーム 代表 石塚美津夫 氏

講演4「日本一おいしいコシヒカリを消費者に届ける ～米・食味分析鑑定国際コンクールでダイヤモンド褒賞受賞～」

（有）笠原農園 代表取締役 笠原勝彦 氏

#### (2) 2018年度FC成果発表会

基調講演として、「農業気象災害防止に役立つ気象情報の活用」について学び、さらにフィールドを舞台に取り組んだ研究成果を紹介し、フィールド研究への理解を深めるとともに、関係部署との連携強化を図った。

○日時；平成30年12月21日（金） 13:00～16:30

○場所；農学部 C110 講義室

○対象；新潟大学農学部学生及び教職員、FC情報交換会参加機関 他

○参加者；85名（学生・教職員66、学外機関19名）

〔基調講演〕

「農業気象災害防止に役立つ気象情報の活用 ～特に、高温・少雨、日照不足、台風・フェーン、豪雨～」

新潟地方気象台 調査官 北畠 修二 氏

〔成果発表〕

- ① 「米・食味分析鑑定コンクールについて」  
高橋能彦（FC 耕地生産部）
- ② 「異なる灌漑方法が水稻生育におよぼす影響—UAV を用いた水稻生育の把握—」  
吉田和樹（自然科学研究科 環境科学専攻 流域環境学コース M2）
- ③ 「イネにおけるバイオマス突然変異体の形態的特性の解析」  
乙坂息吹・末野穂乃香・根津直弥・西村実（農業生産科学科作物学研究室 4 年）
- ④ 「収穫時期と着色度がイチゴ‘越後姫’の成分に及ぼす影響解析」  
野村 萌（応用生物化学科 4 年）
- ⑤ 「ブタ増体量に及ぼす暑熱耐性と FGF21 及び PPAR $\alpha$  の相関解析」  
齋藤亮太（自然科学研究科 生命食料科学専攻 生物資源科学コース M1）
- ⑥ 「平成 30 年産米の作柄に影響した要因と猛暑下における穂肥・水管理対応—現場事例—」  
星豊一<sup>1</sup>・井上大輔<sup>2</sup>・森駿平<sup>2</sup>・高橋のどか<sup>2</sup>・内山大地<sup>2</sup>・杉本義孝<sup>2</sup>（<sup>1</sup>FC 企画交流部、<sup>2</sup>JA 越後ながおか）
- ⑦ ミズナラにおける萌芽枝形成と抑制芽との関係」  
平方広大<sup>1</sup>・本間航介<sup>2</sup>（<sup>1</sup>自然科学研究科環境科学専攻流域環境学コース M1、<sup>2</sup>FC 森林生態部）

## 2 地域連携・支援・交流

### （1）五泉市との連携推進

- ・五泉市連携検討会第 1 回（9 月 27 日、五泉市福社会館、山田）

### （2）県内農業高校との懇談会

- ・平成 30 年度新潟県高等学校長協会農業・水産部会との教育懇談会（8 月 29 日、ときめいと、山田）

### （3）企業等との連携

- ・新潟清酒学校第 32 回卒業式（6 月 8 日、新潟市「湖畔」、星）
- ・新潟清酒学校第 35 回入学式・合宿講義（7 月 11 日、新潟市「湖畔」、星）
- ・酒造好適米原料米対策委員会（10 月 18 日、県酒造会館、星）

### （4）県・市との連携

- ・ごせん桜工房竣工式（4 月 5 日、ごせん桜工房、山田）
- ・五泉市との共同事業打ち合わせ（5 月 23 日、山田）
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業」連絡会議（4 月 25 日、12 月 13 日、山田）
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業」打ち合わせ（5 月 16 日、星）
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業・第 1 回共通講座」（9 月 18、21 日、ライブラリーホール、山田、板野）
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業・共通講座シンポジウム」（10 月 31 日、ライブラリーホール、山田、板野、星）

- ・平成 30 年度新潟県高等学校長協会農業・水産部会との教育懇談会（8 月 29 日、ときめいと、山田）
- ・北信越畜産学会新潟県分会（3 月 18 日、C110、山田、板野）

(5) 地域支援（講演要請等）

- ・平成 30 年度 JA しおざわ農家組合長会議 講演（4 月 11 日、JA しおざわ、農家組合長・関係機関 130 名、星）
- ・2018 にいがたワーク&ライフフォーラム in 上越 講演（「種子法廃止」と食の安全・安心を考える）（10 月 13 日、上越市、消費者・農業者・農業団体等 50 名、星）
- ・平成 30 年度「越淡麗」下越西支部栽培研究会講演（1 月 24 日、新潟市「プラスサード」、農業者・酒造メーカー等 27 名、星）
- ・JICA 草の根技術協力事業「黒竜江省綏化市食の安全と環境対策事業」平成 30 年度報告・検討会（1 月 25 日、韓・星）

### 3 共同研究・プロジェクト研究の企画・推進

(1) 試験研究機関等との連携打ち合わせ

- ・県農業総合研究所園芸研究センター（5 月 21 日、山田・板野・星）
- ・県農業総合研究所食品研究センター（5 月 25 日、山田・板野・星）
- ・新潟県農業総合研究所成果発表会（6 月 27 日、アオーレ長岡、星）
- ・新潟県庁農林水産部・農地部（7 月 9 日、末吉・山田・星）
- ・新潟県農林水産部農業総務課政策室（7 月 26 日、高橋・星）
- ・新潟県庁農林水産部（10 月 24 日、11 月 20 日、山田・星）
- ・新潟市農業活性化研究センター事業推進会議（2 月 6 日、星）

(2) 平成 30 年度県内農林業試験研究機関研究調整担当者等情報交換会（第 22 回）

県内の農林業試験研究機関の相互連携と共同研究をめざし開催した。

- 開催日 平成 30 年 7 月 2 日（月）14:00～17:00
- 場所 新潟大学農学部「大会議室」
- 主催 フィールド科学教育研究センター
- 参集機関 長岡技術科学大学生物系、新潟薬科大学応用生命科学部、新潟食料農業大学、（国立研究開発法人）中央農業研究センター北陸研究拠点、新潟県農業総合研究所、新潟県森林研究所、新潟市農業活性化研究センター、新潟大学農学部・附属フィールド科学教育研究センターの各所属長・研究調整担当 15 名

○会議の概要

- ①新たな動きの紹介
- ②平成 29 年度主要研究成果
- ③平成 30 年度新規主要研究課題および公募型研究、競争的資金等
- ④情報交換

ア 「新潟食料農業大学」の概要（新潟食料農業大）

イ 中央農研が育成した水稻新品種の特性について（中央農研セ北陸研究拠点）

ウ 森林研究所試験研究成果発表会について（新潟森林研）

エ 平成 30 年度「にいがた夢農業・人づくり事業」共通講座シポジウムについて（新大農 FC）

オ マッチングフォーラムの開催（農研機構 中央農研セ北陸研究拠点）

#### 4 教育関連

- ・基礎農力WG（5月29日、A110、山田）
- ・基礎農力、「にいがた夢農業・人づくり事業・第1回共通講座」（9月18、21日、ライブラリーホール、山田、板野）

#### 5 広報関連

(1) 年報17号の発行（11月）

(2) 企画交流部会の開催（3回）

第1回：4月26日15:00～16:00 B216

- ・平成30年度企画交流部事業年間計画について
- ・新潟県連携事業「にいがた夢農業・人づくり事業共通講座シンポジウム」（第15回FCシンポジウム）について

第2回：9月26日15:00～16:00 B205

- ・平成30年度第5回「にいがた夢農業・人づくり事業共通講座シンポジウム」（第15回FCシンポジウム）開催計画について
- ・「2018年度FC成果発表会」について

第3回：3月20日（水）11:00～12:00 A110

- ・平成30年度事業概要・予算中間報告
- ・平成31年度事業計画・予算（案）について
- ・平成31年度企画交流部長が指名する協力教員の指名について



## 耕地生産部

### 1. 農産物生産

#### <村松ステーション>

耕種部門では、4.5haの圃場に、大豆、青大豆、ジャガイモ、スイカ、大根等を栽培した。今年度の生産概要は巻末の資料のとおりである。

畜産部門では、4.51haの草地で牧草を栽培し生草での総収量は162,567kgであった。乳牛の飼養頭数は26頭で（経産牛16頭、育成牛8頭）、年間の生乳出荷量は89,228kgであった。新潟県安全安心ブランド生産農場「クリーンミルク」の認定が継続された。アイス製造業者と地元生産者との連携で、平成25年4月から開始した、FCの生乳でアイスマルク（新大村松農場の生乳で作ったアイス）の製造と販売を継続した。中央酪農会議の地域交流牧場全国連絡会に継続して加盟し、同酪農教育ファームとして継続して認証された。

#### <新通ステーション>

水稻は、コシヒカリを158.5a、こしいぶきを17.7a、越淡麗（酒米）を19a栽培した。新潟県のコシヒカリの作況指数は95で、「コシヒカリ」、「こしいぶき」、「越淡麗」とも全量1等米であった。生産概要は巻末の資料のとおりである。

### 2. 全国大学農場協議会等への参加

#### 1) 関東甲信越地域協議会

① 関東甲信越農場協議会役員会 3/20 明治大学

総会および研究集会 8/7-8 東京農大 山田・濱田

研究発表「新潟大学農場におけるラジコンヘリを利用した簡易リモートセンシングの現状と可能性 第2報」濱田ら

#### 2) 全国協議会

① 春季協議会 5/10~11（東京） 山田・塚野 2名参加 教授会報告

② 秋季協議会 9/12~14（明治大学担当）高橋・佐藤俊 2名参加 教授会報告

### 3. 職員個別研修関係

平成30年度 酪農教育ファームスキルアップ研修会 11/9 仙台市 西川

平成30年度 畜産安心安全ブランド農場研修会 2/20 新潟市 田中

### 4. 成果報告

① FC成果発表会「米・食味分析鑑定コンクールについて」高橋 12/21

② 耕地生産部報告検討会ー作物など生産力と作業調査ー 2/27（村松ステーション）

③ 耕地生産部研究成果発表会 2/27（村松ステーション）

## 森林生態部

### 平成30年度運営概要

平成30年度は文科省教育関係共同利用拠点2期目の2年度として、受け入れ大学の拡大を図り、実習内容の充実に努めた。

#### 1. 文部科学省教育関係共同利用拠点（演習林）

本年度は教育関係共同利用拠点2期目の2年度として実習を量、質ともに充実させた。

実習の充実 : 16回のべ700人の参加

さくらサイエンス事業で、中国・サハリン熱帯植物園の大学院生の実習を行った。3月に森林学会後の森林教育関係の自主エクスカージョンとして、学生を含む研究者らの実習を行った。

他施設との共同 : 理学部附属臨海実験所および朱鷺・自然再生学研究センター

情報発信 : ニュースレターの発行（11号-13号）

ホームページやブログの更新

佐渡ゼミ : 共同実習で来島された大学等の教職員を講師として、5回開催した。

#### 2. 運営管理業務

今年度末に期限付き助教ポストを、期限なしの准教授ポストに替えたことによって、スタッフの充実が図られた。平成31年度に演習林内へのバイオトイレの設置及び男女浴室のシャワー室設置が予算化された。演習林における実習が円滑に実施されるように、年間を通して林道の維持管理を行った。また、間伐等人工林の施業を実施した。

#### 3. 研究業務

演習林内のスギ天然林、樹木の調査や災害・復興科学研究所と共同で行っている気象観測を引き続き行った。環境省のモニタリングサイト1000事業やJaLTER（長期生態研究）との連携をはかり森林の長期モニタリング研究を全国のサイトと共同して実施した。佐渡3施設の統合に向けた共同研究を若手教員の中で実施した。また、オオミスミソウの調査を京都大学と共同で行った。これらの結果、演習林を利用した論文が国際誌に掲載された。

#### 4. 地域貢献

佐渡ジオパークガイドやトキガイド養成講座の講師として協力した。佐渡市主催の子ども環境学習会に協力し、演習林で林業体験や木の工作を実施した。新穂小学校でも、5年生を対象に、森林に関する授業を実施した。また、演習林でどのような教育研究を行っているかを地域の住民に知ってもらうために、山開きの開催や外海府地域のイベントに参加した。

#### 5. 木工品生産

演習林から生産された木材による座卓、まな板、箸置き、印鑑立て、ぐい呑みなどの小物を生産し販売した。尾畑酒造の「学校蔵プロジェクト」に天然スギ材を提供して、リキュールの材料として利用してもらった。また、ホテルファミリーオ佐渡相川から注文を受けてキーホルダーの作成を行った。

#### 6. 佐渡3施設統合に向けて

4月から佐渡3施設の統合に向けた準備委員会の会合を行い、方向性を検討した。2019年2月に新センター開所目前シンポジウムを大学で開催した。

## 規定および内規

○新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター規程

平成16年4月1日

農規程第11号

### (趣旨)

第1条 この規程は、新潟大学学則(平成16年学則第1号)第7条に規定する新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 センターは、フィールドにおける生物生産技術及び環境管理技術に関する教育研究並びに社会教育(以下「教育研究活動等」という。)を行うことを目的とする。

### (教育研究部)

第3条 センターに、教育研究活動等を円滑に行うため、次に掲げる教育研究部を置く。

- (1) 企画交流部
- (2) 耕地生産部
- (3) 森林生態部

2 教育研究部に関し必要な事項は、別に定める。

### (ステーション)

第4条 センターに、次に掲げる教育研究活動等を実地に行う施設(以下「ステーション」という。)を置く。

- (1) 村松ステーション
- (2) 新通ステーション
- (3) 佐渡ステーション

2 ステーションに関し必要な事項は、別に定める。

### (組織)

第5条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) フィールド科学教育研究センター長(以下「センター長」という。)
- (2) 専任教員
- (3) 客員教員
- (4) 事務職員
- (5) 技術職員

(センター長)

- 第6条 センター長は、センターに関する校務をつかさどる。
- 2 センター長は、農学部又はセンターの教授をもって充てる。
  - 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えることはできない。
  - 4 前項のほか、センター長候補者の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

- 第7条 センターに、センターの管理運営等に関する事項を審議するため、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。
- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

- 第8条 第3条第1項に規定する教育研究部に当該教育研究部の運営を審議するため、それぞれ部会を置く。
- 2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

- 第9条 センターの事務は、自然科学系事務部において処理する。

(雑則)

- 第10条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成18年3月20日農規程第3号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

○新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日

農規程第12号

改正 平成18年3月20日農規定第3号

平成21年3月18日農規定第4号

(趣旨)

第1条 この規程は、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター規程(平成16年農規程第11号)第7条第2項の規定に基づき、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) フィールド科学教育研究センター(以下「センター」という。)の事業計画に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) 各教育研究部の長の選考に関する事項
- (4) その他センターの運営に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 農学部長
- (2) 農学部から選出された新潟大学評議員
- (3) 農業生産科学科長、応用生物化学科長及び生産環境科学科長
- (4) フィールド科学教育研究センター長(以下「センター長」という。)
- (5) 各教育研究部の長
- (6) センターの専任教員
- (7) センターの客員教員
- (8) 自然科学系総務課副課長(農学部事務室長を命じられた者)
- (9) その他センター長が指名する教員及び技術職員 若干人

2 前項第9号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、自然科学系事務部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成18年3月20日農規程第3号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月18日農規程第4号)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

○新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センターに置く教育研究部及び部会に関する内規

平成16年4月1日

農学部長裁定

改正 平成18年3月20日

平成19年3月20日

平成23年2月16日

(趣旨)

第1条 この内規は、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター規程(平成16年農規程第11号。以下「規程」という。)第3条第2項及び第8条第2項の規定に基づき、教育研究部及び教育研究部に置く部会に関し必要な事項を定めるものとする。

(教育研究部の業務)

第2条 企画交流部は、次に掲げる業務を行う。

- (1) フィールド科学教育研究センター(以下「センター」という。)の教育プログラムの企画及び調整に関する事項
- (2) センターの地域共同プログラムに関する事項
- (3) 地域情報の収集と発信に関する事項
- (4) 企画交流部の教育及び研究に関する事項
- (5) 企画交流部の予算及び決算に関する事項
- (6) 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター年報の発行に関する事項
- (7) その他企画交流部の運営に関し必要な事項

2 耕地生産部は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 耕地生産部の教育及び研究に関する事項
- (2) 耕地生産部の予算及び決算に関する事項
- (3) 村松ステーション及び新通ステーションの管理運営に関する事項
- (4) その他耕地生産部の運営に関し必要な事項

3 森林生態部は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 森林生態部の教育及び研究に関する事項
- (2) 森林生態部の予算及び決算に関する事項
- (3) 森林の持続的利用計画に関する事項
- (4) 佐渡ステーション及び村松ステーション(苗畑)の管理運営に関する事項
- (5) 佐渡ステーションの共同利用の実施に関する事項
- (6) その他森林生態部の運営に関し必要な事項

(部長)

第3条 各教育研究部にそれぞれ部長を置き、農学部又はセンターの担当を命ぜられている教授又は准教授をもって充てる。

(部会)

第4条 規程第8条第2項の規定により、各教育研究部に置く部会は、次に掲げる者をもって組織する。

部会名	組織
企画交流部会	イ 企画交流部長 ロ 耕地生産部長及び森林生態部長 ハ 企画交流部の教員 ニ 企画交流部長が指名する教員(協力教員) ホ 企画交流部会が必要と認めた職員
耕地生産部会	イ 耕地生産部長 ロ 耕地生産部の教員 ハ 耕地生産部長が指名する教員(協力教員) ニ 耕地生産部会が必要と認めた職員
森林生態部会	イ 森林生態部長 ロ 森林生態部の教員 ハ 森林生態部長が指名する教員(協力教員) ニ 森林生態部会が必要と認めた職員

2 前項に規定する各部会の組織に掲げる者のうち、各部長が指名する教員及び各部会が必要と認める職員の委員としての任期は、1年とし、再任を妨げない。

第5条 部会は、部長が招集し、その議長となる。

2 部長に事故あるときは、部長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

3 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を部会に出席させることができる。

第6条 部会の事務は、自然科学系事務部において処理する。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から実施する。

附 則(平成18年3月20日)

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月20日)

この内規は、平成19年4月1日から実施する。

附 則(平成23年2月16日)

この内規は、平成23年2月16日から実施する。



○新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター年報の発行に関する内規

平成19年4月1日

農学部長裁定

(趣旨)

第1条 この内規は、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センターに置く教育研究部及び部会に関する内規(平成16年農学部長裁定)第2条第1項第6号に規定する新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター年報(以下「センター年報」という。)の編集並びに発行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(発行頻度)

第2条 センター年報は、年1回発行する。ただし、必要に応じて複数回発行することができる。

(編集方針)

第3条 センター年報は、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター(以下「センター」という。)に関わる次の内容を基本として編集する。

- (1) 活動日誌
- (2) 研究活動
- (3) 教育・実習・地域連携活動
- (4) 事業・生産活動
- (5) 各種シンポジウム・発表会報告
- (6) 成果発表会報告
- (7) 研究業績
- (8) 規程及び内規等
- (9) 構成員
- (10) その他必要と思われる内容

(著作権)

第4条 センター年報に掲載された研究成果等の著作権は、センターに帰属する。ただし、著者が自らの論文の全部又は一部を転載することは制限しない。

2 研究報告に掲載された論文は、広く社会に公開することを原則とし、コンピュータ検索システム等への登録や掲載は、原則として許可する。ただし、内容の改変や著作権を侵害するおそれがある場合には、許可しないこともある。

(事務)

第5条 センター年報発行の事務は、自然科学系事務部において処理する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から実施する。

## 平成 30 年度フィールド科学教育研究センター構成員

センター長 教授 山田 宜永 (動物遺伝学: [tyamada@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:tyamada@agr.niigata-u.ac.jp))

### 企画交流部

部長 教授 山田 宜永  
客員教授 星 豊一 (水稻育種)  
協力教員 板野 志郎 (草地生態学)、大竹 憲邦 (植物栄養学)、栗生田 忠雄 (環境土壌物理学)

### 耕地生産部

部長 教授 高橋 能彦 (作物栄養学: [takahasi@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:takahasi@agr.niigata-u.ac.jp))  
准教授 韓 東生 (園芸学: [hand-sh@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:hand-sh@agr.niigata-u.ac.jp))  
助教 吉田 智佳子 (家畜繁殖学: [cyoshida@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:cyoshida@agr.niigata-u.ac.jp))  
協力教員 杉山 稔恵 (動物生体機構学)、大竹 憲邦 (植物栄養学)、長谷川 英夫 (生物生産機械学)

### 村松ステーション

技術職員 石本 光明、西川 孝一、田中 繁史、佐藤 翼、濱田 悟志  
非常勤職員 長井 みのり、剣持 亜津己

### 新通ステーション

技術職員 佐藤 俊栄、高橋 史寿

### 森林生態部

部長 教授 崎尾 均 (樹木生態学・水辺林森林学: [sakio@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:sakio@agr.niigata-u.ac.jp))  
准教授 本間 航介 (森林生態学: [homma@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:homma@agr.niigata-u.ac.jp))  
助教 阿部 晴恵 (森林生態学: [habe@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:habe@agr.niigata-u.ac.jp))  
特任助手 菅 尚子 (炭素循環・土壌微生物: [kan.n@agr.niigata-u.ac.jp](mailto:kan.n@agr.niigata-u.ac.jp))  
協力教員 高田 良三 (家畜栄養学)、城 斗志夫 (食品生化学)、村上 拓彦 (森林GIS)  
権田 豊 (砂防学・応用生態工学)、飯田 碧 (理学部 水圏生物学)

### 佐渡ステーション

技術職員 谷口 憲男、濱田 栄一  
技術補佐員 本間 大也  
非常勤職員 柳屋 喜和、平越 高弘、川嶋 一二三 (臨時用務員)

### 事務部

#### 総務係

#### 学務係

センター係 係長 池田 明男  
非常勤職員 青木 由利子 (村松ステーション常駐)  
非常勤職員 石塚 しのぶ (佐渡ステーション常駐)  
非常勤職員 土田 真由美 (FC事務室常駐)

平成 30 年度フィールド科学教育研究センター運営委員会名簿

運営委員会規程 第 3 条	役 職 名		平成 30 年 4 月	
			氏 名	所属
1 号委員	学 部 長		末 吉 邦	
2 号委員	副学部長・評議員		中 田 誠	
3 号委員	学 科 長	農業生産科学科	高 田 良 三	
		応用生物化学科	原 田 直 樹	
		生産環境科学科	関 島 恒 夫	
4 号委員	セ ン タ ー 長		山 田 宜 永	
5 号委員	部 長	企画交流部	山 田 宜 永	
		耕地生産部	高 橋 能 彦	村松 S T
		森林生態部	崎 尾 均	佐渡 S T
6 号委員	センター専任教員		韓 東 生	新通 S T
			吉 田 智佳子	村松 S T
			本 間 航 介	佐渡 S T
			阿 部 晴 恵	佐渡 S T
			菅 尚 子	佐渡 S T
7 号委員	センター客員教員		星 豊 一	
8 号委員	事 務 室 長		塚 野 國 和	
9 号委員	センター長が指名する 教員及び技術職員		杉 山 稔 恵	
			板 野 志 郎	
			権 田 豊	
			西 川 孝 一	村松 S T
			濱 田 悟 志	村松 S T
			佐 藤 俊 栄	新通 S T
			谷 口 憲 男	佐渡 S T

※ 9号委員の任期は1年，再任可。

# 資料1 各作物の生産概要（耕地生産部）

(1) 畑作物生産概要（平成30年度）村松STA

表1

作物		青大豆	馬鈴薯	西瓜	大根	
品種、栽培様式		越後みどり	男爵・メークイン	祭ばやし777 / スウィートキッズ	耐病総太り	
栽植密度等		75cm×15cm	75cm×40cm	3m×2.5m	75cm×30cm	
A. 作付面積 (a)		200	20	50	25	
B. 総収量 (kg)		1440	2557	3133	2114	
販売量 (kg)		1440	2557	3133	2114	
内部仕向け(kg)		0	0	0	0	
C. 粗収入 (円)		389,920	355,500	438,580	169,120	
D. 直接的経費 (円)		234,632	82,050	182,324	40,902	
E. C-D (円)		155,288	273,450	256,256	128,218	
F. 所要労働時間		453.5	300.0	281.0	137.5	
G. 機械利用時間		115.5	35.0	57.5	37.5	
種苗量		4kg/10a	117.6kg/10a	387(本)	2.7dℓ/10a	
10 ア ー ル 当 た り	施肥量 (kg)	N	0.6	10.2	2.4	2.0
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1.4	5.0	2.4	2.0
		K <sub>2</sub> O	2.1	5.0	2.4	2.0
	作業別労働時間	種子選別	1.9			
		育苗一切				
		石灰散布	0.1		0.2	
		堆肥散布				
		耕起・整地・マルチング	0.8	1.5	3.9	1.6
		施肥・播種・植付	1.2	6.0	10.8	1.8
		中耕除草・培土	1.4	1.8		
手取り除草		4.1				
薬剤散布		1.0	0.5	1.7	0.8	
その他管理		1.1	5.0	17.9	7.8	
計	人力	16.9	150.0	44.7	55.0	
	機械	3.1	11.8	11.5	15.0	
直接的経費 (円)	種苗費	2,880	22,570	21,191	7,686	
	肥料費	990	7,987	3,790	2,707	
	薬剤費	5,229	2,806	216	2,789	
	燃料費	1,570	4,629	2,414	3,179	
	諸資材費	1,062	3,034	8,796	0	
計	11,731	41,025	36,407	16,361		
10a 収量 B/A×10(kg)		72	1279	627	846	
10a 粗収入C/A×10 (円)		19,496	177,750	87,716	67,648	
10a C-D/A×10 (円)		7,764	136,725	51,251	51,287	
労働生産性 B/F (kg)		3.2	8.5	11.1	15.4	
生産物1kg直接的経費D/B(円)		162.9	32.1	58.2	19.3	
作況概要		並	収穫時期が早かったため、Sサイズの比率が多かった。	良	暖冬のため生育後半は旺盛に肥大した。	

エダマメ	トマト	サツマイモ	玉ねぎ	ニンジン
グリーン75 1 列、おつな姫0.5 列、湯上り娘2.5	ホーム桃太郎	シルクスイート (4列)	ケルタマ	恋ごころ
30cm×20cm	90cm×60cm	2m×30cm	15cm×15cm	15cm×15cm
20	0.7	10	1	1
929	286	1429	181	85
929	286	1429	181	85
0	0	0	0	0
185,800	68,640	357,250	21,720	17,000
40,137	16,455	68,983	11,569	10,479
145,663	52,185	288,267	10,151	6,521
140.5	144.5	226.3	108.5	54.0
17.0	7.0	38.0	8.5	8.5
4(袋)	520(粒)	1200(本)	50ml	6,000(粒)
2.0	15.0	0.0	20.5	10.0
2.0	15.0	0.0	20.5	10.0
2.0	15.0	0.0	20.5	10.0
	350.0		80.0	
0.3	7.1	0.5	0.0	6.7
			0.0	
2.8	21.4	5.5	20.0	26.7
12.3	135.7	13.5	230.0	213.3
0.5	7.1	2.0	10.0	6.7
12.5	14.3		170.0	53.3
4.8	21.4		40.0	6.7
1.3	357.1	20.0	135.0	66.6
35.8	507.1	184.8	400.0	340.0
	42.9			
	600.0			
70.3	2064.3	226.3	1085.0	720.0
8.5	100.0	38.0	85.0	113.3
7,493	70,571	53,568	41,250	36,000
2,707	29,004	0	28,593	15,347
870	3,619	0	2,200	717
3,694	39,339	6,994	19,515	24,597
5,305	91,487	8,620	24,137	28,131
20,069	235,070	69,182	115,694	104,792
465	4086	1429	1810	1133
92,900	980,571	357,250	217,200	226,667
72,831	745,502	288,267	101,506	86,947
6.6	2.0	6.3	1.7	1.5
43.2	57.5	48.3	63.9	123.3
おつな姫と湯上り娘 それぞれ0.5列減ら した。	8月中旬には樹勢が 衰えて収穫期間は短 かった。	滑らかな食感が好評 なシルクスイートを 単一で栽培した。	春先にべと病が発生 し、欠株や撤去を要 する株が多数生じ た。	2回目以降の発芽が 不良

(2) 牧草生産概要 (平成30年度)

作物		牧草					
品 種		オーチャードグラス主体永年牧草					
A. 作付面積	(a)	451					
B. 総収量	(kg)	162,567					
C. 換算収入※		3,251,340					
D. 直接的経費	(円)	416,283					
E. C - D	(円)	2,835,057					
F. 所要労働時間		242.0					
G. 機械利用時間		242.0					
作業類型		更新・造成		維持管理		収穫調製	
A'	(a)	100		566		1,353	
F'		58.5		56.5		127	
G'		58.5		56.5		127	
10 ア 作 業 別 ル 労 働 当 時 間 た り	施肥量 kg/10a	元肥 尿素 - スラリー 22.5 t/10a 堆肥 -		追肥 尿素34kg/10a スラリー 0~12.8 t/10a			
		年間 分/10a		年間 分/10a		年間 分/10a	
	耕起	-		-		-	
	砕土	5h/130a 23.1		-		-	
	石灰散布	-		-		-	
	スラリー散布	37h/235a 94.5		42h/205a 122.9		-	
	元肥・追肥散布	-		8.5h/1353a 3.8		-	
	堆肥散布	-		4h/416a 5.8		-	
	整地	12h/550a 13.1		-		-	
	施肥	-		-		-	
	播種	2h/100a 12.0		-		-	
	鎮圧	2.5h/100ε 15.0		2h/91a 13.2		-	
	除草剤散布	-		-		-	
	刈取	-		-		21.5h/1353a 9.5	
	反転	-		-		19h/1353a 8.4	
	集草	-		-		17h/1353a 7.5	
	結束	-		-		24.5h/1353a 10.9	
	集積	-		-		23.3h/1353a 10.3	
	ラッピング	-		-		12.5h/1353a 5.5	
	運搬・収納	-		-		9h/1353a 4.0	
計	人力	58.5h 157.6		56.5h 145.7		127h 56.2	
	機械	58.5h 157.6		56.5h 145.7		127h 56.2	
直接的経費	種 苗 費 (年間)	99,004円/150a		6,600円/10a			
	肥 料 費 (年間)	64,414円/566a		1138円/10a			
	薬 剤 費	-		-			
	燃 料 費 (年間)	62,570円/2023a		309.3円/10a			
	諸 資 材 費 (年間)	190,296円/1357a		1,402円/10a			
	計 (年間)	416,283円/2023a		2,057.8円/10a			
10a 収量 B/A × 10 (kg)		3604.6 kg					
10a 粗収入 C/A × 10 (円)		72,091 円					
10a C-D/A × 10 (円)		62,862 円					
労働生産性 B/F(kg)		671.8 kg/h					
生産物1kg直接的経費D/B (円)		2.56 円/kg					
作 況 概 要		自給粗試料の評価：乾物 40%、TDN 60 乾物1kgあたり50円とすると、換算収入は、総収量162,567kg×乾物量40%×50円 = 3,251,340円					

### (3) 水稻の生産概要(平成30年度)

品種・栽培様式		コシヒカリ158.5a、こしいぶき17.7a、 越淡麗19a			
栽植方法密度等		稚苗移植方式、栽植密度(18.2株/㎡)			
A	作付け面積 (a)	195.2			
B	総収量 (kg)	9,533.0			
	販売量 (kg)	9,533.0 ※			
	内部仕向け (kg)	-			
C	粗収入 (円)	3,068,686.0			
D	直接的経費 (円)	945,270.0			
E	C-D (円)	2,123,416.0			
F	所要労働時間	484.0			
G	機械労働時間	253.0			
10 ア ー ル 当 り	種苗量 (kg)		3.5		
	施肥 量 kg		コシヒカリ	こしいぶき	越淡麗
		N	5.7	5.7	5.7
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	4.8	4.8	4.8
		K <sub>2</sub> O	5.6	5.6	5.6
	作業別 労働時間	育苗一切		3.13	
		施肥(追肥)		0.41	
		耕起・整地		2.18	
		田植・補植		4.25	
		除草剤散布(畦畔草刈り含む)		1.82	
		溝切り		0.41	
		薬剤散布(大型防除)		-	
		収穫・調整		3.23	
		出荷準備(精米など)		4.51	
出荷		3.07			
その他管理		1.79			
計	人 力		24.80		
	機 械		12.94		
直接的 経費 円	種 苗 費		1,933.7		
	肥 料 費		6,017.5		
	薬 剤 費		4,860.3		
	燃 料 費		3,030.4		
	共益費		24,229.6		
	諸資材費		8,354.2		
	計		48,425.7		
10a収量 B/A×10 (kg)		488.4			
10a粗収入 C/A×10 (円)		157,207.0			
10a C-D/A×10 (円)		108,782.0			
労働生産性 B/F (kg)		19.7			
生産物1kg直接的経費 D/B(円)		99.2			
作況概要		5月上旬以降おおむね天候に恵まれたものの、 6月・7月の高温・少雨、8月下旬以降の日照不足 により全収量が少なく、登熟もやや不良となり 10a当たり488.4kgとやや低収量となった。 品質面では、大きな被害はなく全量1等米であった。			

※塩川酒造833kg・直販8700kg

(4) 転作畑の生産概要 (平成30年度) 新通S T A

(ソラマメ)

(玉ネギ)

(ナス)

品種・栽培様式	品種=打越一寸	品種=O・P黄	品種=みず茄 畦幅100cm 株間50cm		
栽植方法密度等	畦幅120cm 株間40cm	畦幅140cm 株間15cm(5条)	畦間80cm		
A 作付け面積 (a)	10.0	10.0	1.5		
B 総収量 (kg)	958.0	3,226.0	783.0		
販売量 (kg)	953.0	3,221.0	783.0		
内部仕向け (kg)	5.0	5.0	-		
C 粗収入 (円)	381,200.0	386,520.0	187,920.0		
D 直接的経費 (円)	83,240.3	54,891.0	19,513.2		
E C-D (円)	297,959.7	331,629.0	168,406.9		
F 所要労働時間	393.0	386.0	75.0		
G 機械労働時間	15.0	15.0	9.0		
作 付 面 積 当 り	種 苗 量 (kg)	6.0	4.0	みず茄 300粒	
	施 肥 量 kg	N	14.0	20.2	2.1
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	8.0	11.5	1.2
		K <sub>2</sub> O	14.0	20.2	2.1
	作 業 別 労 働 時 間	育苗 一切	6.0	21.0	7.5
		堆肥 散布			
		施肥・耕起・整畦・マルチング	14.0	23.0	2.5
		播種・植付・補植	22.0	68.0	10.0
		追 肥		4.0	
		除草・除草剤散布	3.0	41.0	
		薬剤散布	6.0	13.0	4.0
		その他の管理	122.0		7.0
		収穫・調整・販売	214.0	216.0	41.0
		残渣処理	6.0		3.0
	計	人 力	393.0	386.0	75.0
機 械		15.0	15.0	9.0	
直 接 的 経 費 円	種 苗 費	27,420.0	20,160.0	2,070.0	
	肥 料 費	12,260.0	17,168.0	2,095.0	
	薬 剤 費	3,267.3	6,953.0	548.3	
	燃 料 費	3,360.0	4,610.0	4,012.5	
	諸 資 材 費	36,933.0	6,000.0	10,787.4	
	計	83,240.3	54,891.0	19,513.2	
10a当り収量 B/A×10(kg)	958.0	3,226.0	5,220.0		
10a当り粗収入 C/A×10 (円)	381,200.0	386,520.0	1,252,800.0		
10a当り収入 C-D/A×10 (円)	297,959.7	331,629.0	1,122,712.3		
労働生産性 B/F(kg)	2.4	8.4	10.4		
生産物1kg直接的経費 D/B(円)	86.9	17.0	24.9		
作況概要	<p>春季は暖かく、良好に生育した。除茎、整枝の管理作業と、適期の薬剤散布を行ってアブラムシと赤色斑点病の被害も無く、収穫期を迎えた。</p> <p>温暖化の影響か、近年は収穫期が早まりつつあるが、積算温度を考慮し適期に収穫することができた。収量は953kgの高い収穫量だった。</p>	<p>近年は春先から「べと病」の被害が広がり収量が激減しているため、様々な対策を行っている。</p> <p>べと病対策の効果は出ており、引き続き問題解決に取り組んでいく。</p> <p>やや、べと病の影響が軽減され収量は3221kgと増収に転じている。</p>	<p>定植後、期間を通して気温が高く、降水量は少なかった。病害虫の発生に薬散を行えたため被害は少なかった。</p> <p>収量は783kgだった。</p>		



## (トマト)

## (里 芋)

## (枝豆)

草花(50m<sup>2</sup>)

品種=桃太郎ATM081 台木=ヘルパ <sup>®</sup> -M 畦幅100cm 株間50cm 2条植え	大和早生 条間120cm 株間40cm マルチ栽培	おつな姫、湯あがり娘、 越後ハニー、越乃茶太郎、 さかな豆	ビニルハウス育苗 ポット鉢あげ マリーゴールド、サルビア、日々草 けいとう、他
1.0	5.0	株間20~30cm (2条) 20.0	0.5
802.0	684.0	3,550.0	7,931.0
802.0	679.0	3,540.0	7,531.0
-	5.0	10.0	400.0
192,480.0	162,960.0	708,000.0	376,550.0
31,092.3	49,183.2	110,159.0	125,421.9
161,387.7	113,776.8	597,841.0	251,128.1
175.5	144.0	502.0	266.0
1.5	9.0	36.0	-
穂木700 台木700	40.0	8.0	
1.4	7.0	11.2	
0.8	4.0	6.4	
1.4	7.0	11.2	
59.0	2.0		78.0
	5.0		
3.0	9.0	42.0	
22.5	16.0	108.0	67.0
	2.0		
4.0	5.0	20.0	
4.0	4.0	29.0	
43.0	2.0	19.0	29.0
32.0	99.0	284.0	92.0
8.0			
175.5	144.0	502.0	266.0
1.5	(10.0) 9.0	36.0	0.0
11,592.0	31,000.0	35,240.0	16,500.0
1,610.0	5,490.0	10,320.0	
1,168.5	910.0	10,264.0	1,981.9
4,180.0	(1,250.0) 3,120.0	7,250.0	1,250.0
12,541.8	8,663.2	47,085.0	105,690.0
31,092.3	49,183.2	110,159.0	125,421.9
8,020.0	1,368.0	1,775.0	158,620.0
1,924,800.0	325,920.0	354,000.0	7,531,000.0
1,613,877.0	227,553.6	298,920.5	5,022,562.0
4.6	4.8	7.1	29.8
38.8	71.9	31.0	15.8
植物コース実習で接ぎ木苗実習を行っている。接ぎ木苗の定植を行ってから病害の発生は抑えられ、安定した生育をしている。定植後、期間を通して気温が高く、降水量は少なかった。病害虫の発生に葉散を行えたため被害は少なかった。収量は802kgだった。	種イモの芽出しを行い植えた。定植後から生育期間の気温が高く、降水量は少なかった。灌水で対応している。生分解性マルチを使用しているため、中耕・培土の管理作業および灌水を行って非常に良い品質と高い収量を得た。	早生～晩生まで5品種の作付けを行って3540束の高い収量だった。苗立ち率向上のため移植栽培を行い、品種毎の作付けに定植時期の差を設けている。枝豆は収量と売れ行きが安定しているので、新通生産物で主力の一つである。期間を通して高温少雨の傾向があった。	例年と同じくハーブ系と、マリーゴールド、ペチュニア、テーブルひまわり、ケイトウ、サルビアなどに人気があった。また、気温が高くなると草丈が徒長しやすいので、管理に注意している。

## 資料2 村松ステーションのトラクター稼働実績

表1 各トラクターの月別稼働時間と燃料使用量(平成30年)

トラクター 月	MF- 185 76PS	フォード 5635 75PS	クボタ 6970 69.5PS	MF- 174 69PS	クボタ 955 95PS	クボタ 295 29PS	合 計 (稼働 回数)
1					4.00(5)		4.00(5)
2					3.00(6)	6.00(1)	9.00(7)
3		4.00(3)		13.00(4)	8.00(7)	5.00(2)	30.00(16)
4		18.00(6)	6.00(5)	13.00(6)	8.30(10)	4.00(2)	49.30(29)
5	6.00(2)	23.30(7)	26.00(14)	1.30(1)	15.45(13)	6.30(3)	79.15(40)
6		32.45(13)	27.30(10)	10.00(6)	7.30(8)	4.00(2)	81.45(39)
7	3.00(2)	33.00(12)	34.30(13)	11.00(4)	7.30(9)		89.00(40)
8	2.00(1)	18.00(7)	14.00(7)	9.30(3)	10.15(7)	3.00(2)	56.45(27)
9		11.00(7)	12.30(9)	9.30(4)	10.00(9)		43.00(29)
10	4.30(3)	34.30(14)	3.30(4)	11.30(5)	12.00(11)	6.30(3)	72.30(40)
11		16.00(7)			5.45(9)		21.45(16)
12		5.30(5)		9.00(5)	4.00(8)		18.30(18)
合 計	15.30 (8)	196.15 (81)	124.00 (62)	88.00 (38)	96.15 (102)	35.00 (15)	555.00 (306)
燃料 量	40.0	600.0	378.0	289.0	317.0	82.0	1706.0
時間 当燃費	ℓ/hr 2.58	3.06	3.05	3.28	3.29	2.34	——
馬力時間 当燃費	ℓ/hr-ps 0.034	0.041	0.044	0.048	0.035	0.081	——